様式４

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		令和６年度第２回愛川町文化財保護委員会議		
事務局 （担当課）		教育委員会　スポーツ・文化振興課　　内線（　３６３２　）		
開催日時		令和６年７月 25 日（木）午後２時～午後３時 30 分		
開催場所		愛川町役場新館４階 402 会議室		
出席者	委　員	７人　（別紙のとおり）		
	その他	０人　（　　）		
	事務局	６人　（教育長、次長、スポーツ・文化振興課長、ほか３人）		
公開の可否		■公開　□一部公開　□非公開	傍聴者数	無し
非公開･一部公開の場合は、その理由				
会議次第		○　令和６年度第２回文化財保護委員会議 １　開　会 ２　委員長あいさつ ３　教育長あいさつ ４　議　事 （１）文化財案内板修繕計画について　【資料１】 （２）文化財案内標柱の石柱化計画について　【資料２】 （３）ふるさとの木木柱等修繕計画について　【資料３】 （４）文化財案内標柱の文案について　【資料４】 （５）文化財案内板の修繕について　【資料５】 ５　その他 ６　閉　会		

審　議　経　過

主な内容は次のとおり（○は委員の発言、●は事務局の発言）

令和６年度第２回愛川町文化財保護委員会議

１　開　会

２　委員長あいさつ

３　教育長あいさつ

４　議　事

（１）文化財案内板修繕計画について

●【資料１により説明】

○（Ａ委員）：修繕候補の順位について、「名桑「春日」の里帰り」を２位、「西福寺の石造物」を３位、「太田善太夫の陣屋跡」は４位にしてはどうか。

●（事務局）：２位の「太田善太夫の陣屋跡」は、下位の案内板に比べて文字の欠落が多い。

○（Ｂ委員）：順位は事務局の提案のままでよいと思う。

○（委員長）：修繕と併せて、複数存在する案内板の形状の統一を進める考えは。

○（Ｂ委員）：劣化した金属製の案内板については、形状を統一した複合板にインクジェットプリントのシートを貼り付けたものへ順次置き換えていくなど、検討してほしい。

●（事務局）：比較的新しく設置した案内板には複合板を用いており、旧来のものは庇付きの金属製である。形状や素材の統一を図ることも一理あるが、大きな劣化や破損もなく、文字盤を塗り直せば使用に堪えるものについては、引き続き修繕で対

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長（委員長）署名欄	

審　議　経　過

応するのがよいと考える。

○（委員長）：表面をコーティングすれば、屋外でも 20 年は維持できる看板を作ることもできる。費用の問題もあるが、新たな技術についても検討していただきたい。

●（事務局）：昨年度設置した「三増峠の戦い」の案内板は、複合板にインクジェットプリントのシートを貼り付けたものである。今後の状態についても観察したい。

○（委員長）：他に意見がなければ、今後の修繕の順位については、事務局の提案どおりご承認いただきました。

（２）文化財案内標柱の石柱化計画について

●【資料２により説明】

○（委員長）：異議がないようですので、事務局案をご承認いただきました。

（３）ふるさとの木木柱等修繕計画について

●【資料３により説明】

○（委員長）：異議がないようですので、事務局案をご承認いただきました。

（４）文化財案内標柱の文案について

●【資料４により説明】

○（Ａ委員）：地元の方々によれば、両向坂というのは宮沢沿いに上って、集落が途切れるあたりまでの坂だということだ。そこから先は、林業のための道（林道）である。また、両向新道や新道という名称が、現在も用いられているようだ。文字数が制限される説明としては、事務局案でよいと思うが、地元の方々によれば、坂は宮沢大橋のたもとまでは至らないようだ。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長（委員長）署名欄	

審　議　経　過

○（委員長）：宮沢大橋は新たに設置されたものだから、両向坂にとってポイントになるものではないようだ。

●（事務局）：案２の「宮沢大橋のたもとの」という表現を削除すれば実態に合う。

○（Ｂ委員）：この坂が宮沢の上流で丁字路となる場所は、昔から入の沢という名称がある。両向新道という名称は、中津川沿いに県道が開通した後に、両向の人々が県道へ下る際に用いていたからである。

○（委員長）：宮沢大橋の近くの小さな橋のあたりで、入の沢という小さな沢が宮沢に合流しているのか。

○（Ｂ委員）：入の沢というのは、その周辺の地名のことだ。

○（Ｃ委員）：入の沢を解説文に加えるなら、その説明も必要になる。

●（事務局）：入の沢の説明は、『文化財調査報告書第 19 集あいかわの地名−半原地区−』にも記載がある。

○（委員長）：「登山道」とするよりも、「仏果山へ登る宮沢林道につながる坂」としたほうが、説明としてすっきりわかりやすいと思う。

○（Ｄ委員）：案２の「宮沢大橋のたもと」という箇所を省略すればわかりやすいと思う。

●（事務局）：まとめると、案２を『半原神社の裏から宮沢沿いに仏果山のほうへ登り、上流付近で宮沢林道につながる坂。』とするのはどうか。

○（委員長）：いかがでしょうか。この案でよろしいですね。

●（事務局）：両向新道という名称は、前回の会議では削除するとされたが、現在も

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長（委員長）署名欄	

審　議　経　過

用いられているという意見もある。

○（委員長）：これは坂の説明文だから、新道も旧道もない。不要だと思われるので、両向新道という名称は併記しないことにします。

（５）文化財案内板の修繕について

●【資料５-①により説明】

○（Ｂ委員）：半原と撚糸業との関係について、メモにまとめた内容を提案したい。

●（事務局）：委員の皆さんに議論していただく前に、そのメモを参加者に共有させていただきたい。

（※Ｂ委員作成によるメモを人数分コピーして配付する。メモの記述内容は下記のとおり。）

『愛川町半原（はんばら）地区は江戸時代から養蚕と絹撚糸（きぬねんし）業の盛んなところで、とりわけ絹ミシン糸は日本屈指の生産地であった。中津川やその支流の沢に設けた水車を動力にして、八丁式撚糸機（はっちょうしきねんしき）という和式での操業をはじまりとして、洋式撚糸機への近代化をはかり、高品質・大量生産を可能にした。素材が絹から合成繊維に移行し、事業の大規模化にともない、東北・九州などからの集団就職により従業員が増大した。こうした繊維業を地場産業として、工場（こうば）が密集する町であった。

上流には、水量豊富な中津川を水源とする横須賀市水道局の半原水源地があった。もとは日本海軍の水道施設として建設され、戦中までは横須賀鎮守府（よこすかちんじゅふ）へ軍港用水を供給していた。現在は、その上流に首都圏最大の宮ヶ瀬ダムがある。』

○（Ｂ委員）：この案をもとに、再度文案を提示していただけないか。

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長（委員長）署名欄	

審　議　経　過

●（事務局）：提案のとおり文案をまとめ直し、後日、会議とは別の形で委員諸氏に諮るよう準備を進めたい。

○（委員長）：この件は今年度実施予定の事業だから、決定は急いだほうが良い。事務局の提案のとおりにしたい。つづいて資料５-②の説明を。

●【資料５-②により説明】

○（Ｅ委員）：養蚕、餌、名桑にはルビを付けていただきたい。

○（委員長）：中津台地の桑畑は、昭和30年代・40年代頃まで存在していたので、「昭和初期」ではないと思う。

●（事務局）：昭和を３期に分割すれば、30年代・40年代頃は中期といえる。

○（委員長）：「昭和中期まで」とするのがよいと思う。他に意見がないようですので、ご承認いただきました。

５　その他

６　閉　会

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会長（委員長）署名欄	山口勇一

愛川町文化財保護委員名簿

令和６年度第２回愛川町文化財保護委員会議
令和６年７月25日（木）

（敬称略）

No.	氏　　名	役　　職	出　欠
1	山　口　　勇　一	委員長	出　席
2	大　矢　　善　久	副委員長	出　席
3	中　村　　義　市		出　席
4	平　本　　明　夫		出　席
5	八　木　　一　郎		出　席
6	小　島　　睦　夫		出　席
7	平　本　　元　一		出　席